

太宰府市短歌ポスト第九十八期入選歌

(平成三十年五月二十四日)

いにしへの遠つ朝廷の大殿に葺きし瓦の色をしぞおもふ (堀川 洸太郎)

お守りを孫の数だけ買い求む丈夫に育て賢く育てと (深川 由紀子)

千年は瞬きの間や今も残る都府楼社の礎石は光る (矢野 早苗)

友と来た合格祈願一年後お礼参りに来られますように (矢野 早希子)

外つ国の言の葉弾む参道に我もアジアの一人となりぬ (大穂 聡子)

人知れず恋しい人の夢のため買ったお守り渡せずにいる (山口 瑞季)

千年の時を超えたる大樟の枝葉たくまし仰ぐ青空 (中山 佑子)

散り際を模索している梅の花天を仰いで主を想う (阿部 文彦)

たつぷりと朝日を浴びて樟若葉天満宮の空に膨らむ (白井 道義)

伝教も踏んだ岩かな平安の時代を偲んでうぐいすの鳴く (西田 省三)

神苑の宴に舞いしばたん雪もうすぐそこに春めく大地 (横山 美恵子)

十二単まとう幸せ満開の梅の木の下二十歳のわたし (田村 由起子)

梅が咲き雅な香り賜れば心踊りしこの晴れの日 (安藤 ななこ)

小・中学生の部

春の陽ざしあびてかがやく心字池水面にうつる花美しき (石内 さくら)

梅の花春になること香り立つ木々の間をめじろが渡る (村上 愛実)

気が付けばことりのさえずりきこえてる春が来たぞと太宰府の声 (中嶋 理乃)